

令和6年度 学校経営環境分析書

蒲刈中学校区 校番 31 学校名 呉市立蒲刈小学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) ・蒲刈町、下蒲刈町の住人からの本校教育への関心が高い。 ・地域や保護者が教育活動に協力的である。 ・読書ボランティアやゲストティーチャー等、地域の人々の協力が得やすい。 ・自然環境・文化施設に恵まれ、学習内容や教材開発に活用できる。 ・同じ敷地内に小・中学校があるため、合同行事や中学校の教職員による乗り入れ授業、合同研修が計画的に行える。	S (強み) ・児童は明るく素直で礼儀正しく、学年を超えて仲が良い。 ・穏やかな性格の児童が多く、前向きに授業に取り組むことができる。 ・少人数のため実態把握がしやすく、教職員間で児童を見守るとともに、情報を共有でき、個に応じた指導の充実を図ることができる。 ・小・中学校が連携しながら授業改善や合同行事を行うことができる。 ・さまざまな場をとらえて、自己表現する場を意図的に設定しやすい。	支援的要因と強みを生かした活動・取組は ・自然や人的・物的環境を生かした教材開発（「ふるさと学習」）及び実践、明確な視点に基づく改善 ・小中一貫教育のより一層の推進 ・少人数を生かした学習展開の工夫と全教職員による指導の徹底、「誰一人取り残すことない学び」の実現 ・ICT 機器等を活用した個別最適な学びや目指す児童像を意識した自己表現する場の設定
	T (阻害的要因) ・少子高齢化が進み、児童数が大きく減少している。 ・交通が不便なため、社会見学等が常に制限される。 ・校区が両蒲刈にまたがり広範囲なため、放課後や休日等に友達と思うように遊ぶことができない。 ・児童が自由に活用できる、公共施設が少ない。 ・学習用具等を購入するためには、島内に文房具店等がないため、安芸灘大橋を渡る必要がある。	W (弱み) ・自己肯定感の低い児童が固定化している。 ・基礎学力の定着に係る個人差が大きい。 ・切磋琢磨する場面が少ない。 ・聞き手を意識し、自分の考えを意欲的に表現する力が十分に育っていない。 ・返事や授業中の発言する声が全体的に小さい。 ・教職員数が少ないため、分掌内容等、一人にのしかかる負担が大きい。 ・少人数で教育活動を行う際の経費負担（個人）が大きい。	阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は ・保護者、地域、保育所、中学校との連携強化 ・自己肯定感を高める場の設定と様々な評価者による肯定的評価の積み上げ ・読書環境の整備、スキルタイム、放課後学習等による個別指導を一層充実させることによる学力の向上 ・授業改善、聞き手を意識した自己表現する場を意図的に設定することによる思考力・判断力・表現力の育成

2 重点課題

- ① 児童の「問い」を活かし、課題発見・解決学習による主体的・対話的で深い学びとなる授業改善に取り組み、思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに、小中合同行事による異校種交流や異学年交流を通して児童の自己肯定感を一層高めていく。
- ② ふるさと学習や小中一貫教育を通して、地域の財産である「ひと・もの・こと」に出会わせることにより、自分たちの住んでいる地域の良さを再発見させることで“ふるさとを愛し、ふるさとに貢献したい”という思いを持ち進んで考え行動する児童を育てていく。